

当センターの
スペシャリストたち

認定看護師の 紹介



「目配り・気配り・こころ配り」

緩和ケア認定看護師 福田 裕子

緩和ケアの目的は、がんと診断されたときから患者さん・ご家族の生活の質（QOL）を維持・向上することです。

私は緩和ケア認定看護師として、一般病棟でも患者さん・ご家族が少しでも安寧の時間を過ごし、「最期のその瞬間まで、その人らしく生き抜くこと」を支援する看護を目標としています。当院の「おもしろい」の理念のもと、人々に目配り・気配り・こころ配りの緩和ケアを提供したいと思っています。



緩和ケアカンファレンス中

「仲間づくり」

感染管理認定看護師 小森 幸子

『見えない菌やウイルスから患者さん・ご家族・職員を守る。』これが感染管理認定看護師の役割です。院内感染予防のための日常的な活動から問題発生時の対応まで、医師・薬剤師・検査技師・看護師のチームで組織横断的に活動しています。

私が感染対策を実践する仲間知識や技術を伝える際、心がけていることは、①見えないものを見えるように。②方法ではなく、理由を伝える。③クセになるまで繰り返す。この3点です。

これからは、患者さんが過ごす場所（病院内だけでなく介護施設や在宅）で、介護する方々が継続できる感染対策を提案し、地域との連携を強めたいと考えています。



「安心安楽に過ごせる」

皮膚・排泄ケア認定看護師 池端 育江

皮膚・排泄ケアはWound（創傷）、Ostomy（ストーマ：人工肛門・膀胱）、Continence（失禁）の3つを対象にケアを行う分野で、具体的には褥瘡（床ずれ）や人工肛門のケア、失禁による皮膚トラブルのケアなど行っています。

病院内では褥瘡対策委員会を通じて、医師・薬剤師・栄養士など多職種と連携し、院内の褥瘡の調査や回診、体圧分散マットの整備を行いながら褥瘡発生の予防に努めています。また、人工肛門を造設された方には、在宅でもセルフケアが行えるよう、その方に合わせた方法で指導を行い、安心・安楽にその人らしく過ごせるよう援助していきたいと思っています。

今年度から、医師・看護師・作業療法士とともに排尿ケアチームを作り、尿道留置カテーテル抜去後に排尿障害を生じた方に対し、排尿の自立に向けて援助できるような取り組みも始めました。



じょうそう
褥瘡回診中

「その人らしい生活が送れるよう 良きパートナーとして支援する」

慢性呼吸器疾患看護認定看護師 上田 真弓

COPD（慢性閉塞性肺疾患）・気管支喘息・肺線維症・肺炎など、慢性呼吸器疾患をもつ患者さんやご家族へ、その人らしい生活が送れることを目標に、病状に合わせたセルフケアの方法や呼吸リハビリテーションを行い、支援しています。在宅医療の推進が望まれる中で、病院と地域において切れ目のないケアが行えるように看護の橋渡しを行い、調整することも重要な使命と感じています。

呼吸器疾患に伴う息切れは、心身ともに苦痛を感じる症状のひとつです。この苦痛を緩和するために専門性を高め、少しでも多くの笑顔が咲かせられるように、気持ちに寄り添うケアをしていきたいと思っています。

「呼吸ケアサポートチーム（RST）」

当センターには、医師・看護師・臨床工学技士・理学療法士など、多職種で構成している呼吸ケアサポートチーム（RST）があります。

呼吸ケアサポートチーム（RST）では、毎週、人工呼吸器を装着している患者さんに回診を行っています。各専門職のさまざまな視点から、患者さん一人ひとりにあった呼吸ケアが行えるよう取り組んでいます。



呼吸ケアサポートチーム

「病院内のすべての人たちを感染から 守るための活動を行います」

感染管理認定看護師 赤尾 康子

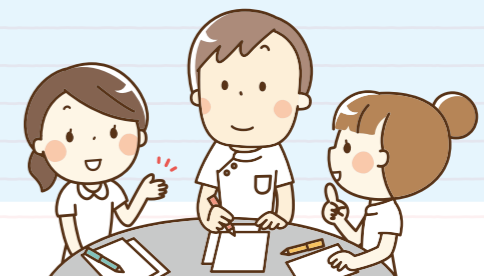
患者さん・ご家族・医療従事者をはじめ、病院に関わるすべての人たちを感染から守るために、知識やエビデンス（根拠）に基づいた感染対策を、医療従事者一人一人が適切に遂行できるよう支援します。

常に患者さんや職員の意見を大切に、現場目線で、より良い感染対策を推進していきたいと考えます。

当センターには、感染制御チームと抗菌薬適正使用支援チームが稼働しています。


私たちは、週に1回、院内ラウンドやカンファレンスを通して、感染対策の現場指導や提案を行っています。

医師・看護師・薬剤師・検査技師がそれぞれの専門性を活かし協働することで、患者さんが安全で快適な療養生活を送れるよう努めています。



新任医師紹介・木村医師表彰

小児科 (8月1日着任)




うえの かずゆき
上野 和之

専門分野・得意分野
小児一般・腎
専門医・認定医等の資格
小児科専門医、腎臓病専門医、日本小児科学会、日本小児腎臓病学会、日本腎臓学会、日本小児腎不全学会、日本小児リウマチ学会

ひとこと
一生懸命頑張ります。

研修医 (7月1日着任)



なかしま みずき
中島 瑞季

出身大学 金沢大学

ひとこと
好きな言葉は、「初志貫徹」です。よろしくお願いします。



皮膚科の木村医師が、平成30年度日本皮膚科学会・雑誌論文賞を受賞しました。



栄養室通信

ジメジメと蒸し暑い梅雨が明けたとたん、うだるような夏の暑さが到来！海やレジャーを楽しむ時期ですが、一方で食欲不振や夏バテに陥りやすい季節です。夏は、冷たいものを摂りがちで、胃腸の動きが低下するとともに、腸が冷えることで免疫力も落ちやすくなります。そこで今回は、夏におすすめする旬の食材の紫蘇(しそ)を紹介します。通年出回っている紫蘇ですが、もっとも美味しく食べられる旬の月は5月～8月と、初夏から夏の間です。免疫力の向上やアンチエイジング効果などに有用な、抗酸化作用をもつβ-カロテン、ビタミンEなどの栄養素が豊富です。葉を細かく刻んでサラダや和え物にあわせたり、豆腐料理やそうめん、ひやむぎの薬味として、また温かいご飯に混ぜて紫蘇ご飯にすると、さっぱりして、量的にも沢山食べることができます。使う前に冷水にさらすことでシャキッとしますよ。

栄養豊富な紫蘇ですが、効果効能を期待して食べるにはそれほど量を摂ることができないものです。生葉をジュースにすることで栄養や薬効が摂りやすくなります。紫蘇に好みのフルーツや蜂蜜などを加えると飲みやすくなります。



上手な保存方法

葉は茎から一枚ずつちぎり、湿らせたキッチンペーパーにつつんで、ジップロックなどのビニール袋に入れ、冷蔵庫の野菜室で保存し、2～3日で使い切るようにしましょう。

よい紫蘇の選び方

緑色が鮮やかで、変色や色あせがなく香りの良いもの。みずみずしくツヤとハリがあり、しおれていないもので、葉先までピンとしているものを選びましょう。あまり大きい葉は味や香りがよくありません。

～旬の食べ物は栄養価が高くなっていますので、積極的に摂って暑い夏を乗り越えていきましょう～

編集後記

今年は、梅雨明けも例年より早く、うだるような暑さが続いています。みなさま元気で過ごされていますか？家の私の部屋にはクーラーがなく、この暑さには耐えかねて茶の間に避難して、一晩中クーラーつけっぱなしで寝ています(笑)。早く秋が来ないかなあと願う今日この頃です。(Y.Y)

加賀市医療センター

広報委員会

〒922-8522 石川県加賀市作見町36番地
TEL 0761-72-1188(代) FAX 0761-76-5263(代)
E-mail kikakukeyei@city.kaga.lg.jp
平成30年8月1日発行



おもいやり




目次

- P2・3 …… 認定看護師特集
- P4 …… 特集
 - ・新任医師紹介 木村医師表彰報告
 - ・栄養室通信



基本理念

「おもいやり」
私たちは、市民とともに、市民中心の医療を提供し、市民の健康を守ります



基本方針

1. 信頼される最適な医療を提供します
1. 救急搬送をこたわらない体制を目指します
1. 将来を担う優れた医療人を育成します
1. 地域に根付いた医療を実践します